

22I-am06S

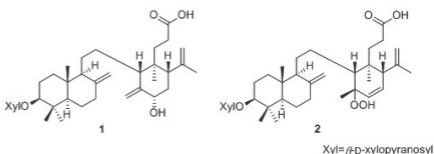
Lansium domesticum 葉部からの新規機能性成分の探索研究

○北川 翔大¹, 松本 崇宏¹, Stephen TEO², 穴井 佑佳¹,

Haji SAPUAN BIN AHMAD², 渡辺 徹志¹ (¹京都薬大, ²Forest Department Sarawak)

【目的】*Lansium domesticum* は南アジアを主な原産としており、その葉部は防蚊剤として利用されている。一方、我々はこれまでに *L. domesticum* 葉部のメタノール抽出エキスに含有される 5 種の新規成分についてその構造を決定できたことを報告している。また、得られたオノセラノイド型トリテルペンが Ames 試験および *in vivo* 小核試験において 3-amino-1,4-dimethyl-5H-pyrido[4,3-*b*]indole (Trp-P-1) および 2-amino-1-methyl-6-phenylimidazo[4,5-*b*]pyridine (PhIP) に対し抗変異原性活性を示すということも判明している。そこで、今回更なる機能性成分の探索を目的とし、引き続き含有成分の探索を行った。

【方法および結果】*L. domesticum* 葉部におけるメタノール抽出エキスを酢酸エチル、1-ブタノールおよび水にて溶媒分配し各可溶分画を得た。そのうち 1-ブタノール可溶分画を順相シリカゲルカラムクロマトグラフィー、逆相 ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC を用いて繰り返し分離精製した。その結果、新たに 2 種のオノセラノイド型トリテルペン配糖体 (**1** and **2**) を単離、構造決定することができた。また、新たに得られた 2 種の新規成分の化学構造は各種 NMR および MS スペクトルを初めとする各種物理化学的データの詳細な解析により決定した。¹⁾



1) *J. Nat. Prod.*, **81**, 2187–2194 (2018).